



人気記事ランキング

週間	月間
----	----



1
オミクロン株亜種 BA.2、短期間で再感染の可能性/デンマ...
医療一般



2
新型コロナ、新検査法で4分以内に検出可能に？
医療一般



3
コロナワクチンのブースター、オミクロン株に最も有効なのは？...
ジャーナル四天王



4
SG顆粒のSGってなあに？ 薬剤の意外な名称由来



5
オミクロン株に対するブースター接種、高齢者での効果は？
医療一般



6
コロナ禍で医療従事者のビタミンD欠乏が顕著/国立成育医療研...
医療一般 日本発エビデンス



7
オミクロン株BA.2、コロナ治療薬の有効性は？/NEJM
医療一般 日本発エビデンス



8
美女が由来の抗アレルギー剤!? 薬剤の意外な名称由来



9
厚労省のワクチン情報と併せて読みたい、お奨め情報源は？
バズった金曜日



10
ガミガミ言っても仕方ない？人は病気になってから予防する
Dr.中島の新・徒然草

医師閲覧ランキング



中立的な臨床医学動画
世界最大医学メディアの
医師生涯教育
今すぐチェック

抗うつ薬または抗精神病薬による薬剤誘発性せん妄発現率

提供元：ケアネット

ツイート

いいね！ 0

公開日：2022/03/17

せん妄治療の成功の可否は、可逆的な原因の検出に依存している。せん妄の一般的な可逆的原因は、せん妄を誘発する薬剤であると考えられる。オーストリア・ウィーン医科大学のM. E. Friedrich氏らは、抗うつ薬および抗精神病薬による薬剤誘発性せん妄について、分析を行った。The International Journal of Neuropsychopharmacology誌オンライン版2022年2月2日号の報告。



精神科入院患者の重篤な副作用を記録するドイツ語圏の各国が参加する多施設薬物監視プログラムAMSP (Arzneimittelsicherheit in der Psychiatrie) のデータを用いて、観察研究を実施した。本研究では、抗うつ薬および抗精神病薬による治療中の薬剤誘発性せん妄について、分析を行った。

主な結果は以下のとおり。

- ・ 1993～2016年の観察期間中に、参加施設110施設において、精神科入院患者43万6,565例に対し抗うつ薬および/または抗精神病薬による治療が行われていた。
- ・ せん妄が報告された患者数は、254例（抗うつ薬および/または抗精神病薬治療を行った患者の0.06％）であった。
- ・ 併用療法が、せん妄発生の70.1％に関与していた。
- ・ 単独または併用療法により、せん妄の発生に最も関与していた薬剤は、クロミプラミン（0.24％）であり、次いでアミトリプチリン（0.21％）、クロザピン（0.18％）であった。
- ・ 単独療法において、せん妄が認められた患者は98例であり、せん妄の発生に最も関与していた薬剤は、クロザピン（0.11％）であり、次いでアミトリプチリン（0.05％）であった。
- ・ 強力な抗ムスカリン作用を有する薬剤は、一般的にせん妄リスクが高かった。

著者らは「AMSPプログラムにおけるせん妄発生率は0.1％未満であり、抗うつ薬および抗精神病薬の使用がせん妄発生に関連することは少なかった。三環系抗うつ薬およびクロザピンは、せん妄発生と最も関連する向精神薬であると考えられる。これらのデータは、せん妄における抗ムスカリン作用の影響を考える上で、役立つであろう」としている。

（鷹野 敦夫）

原著論文はこちら

[Friedrich ME, et al. Int J Neuropsychopharmacol. 2022 Feb 2. \[Epub ahead of print\]](#)

掲載内容はケアネットの見解を述べるものではありません。（すべての写真・図表等の無断転載を禁じます。）

関連記事



統合失調症患者に対する薬物誘発性パーキンソニズム、遅発性ジスキネジアの影響
医療一般（2022/02/16）



せん妄予防に対するラメルテオン+スボレキサントの有効性～メタ解析
医療一般（2022/01/31）

